

科目名称	臨床整復技術実習
授業コード	AF212
英語名称	Laboratory study in Basic Reposition-Technique 3
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	加藤 一雄
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	上肢の脱臼及び軟部組織損傷は临床上重要かつ頻度が高い外傷である。 柔道整復師を目指すうえで必要な上肢の脱臼及び軟部組織損傷に対する柔道整復術の概要を学び、技術を修得する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本学教員（加藤一雄、臨床実践40年以上を行ってきた教員）が臨床で培った経験を踏まえて、上肢の脱臼と軟部組織損傷に対する評価法、応急処置法から実践的施術法に至るまで、臨床的な見地から実践的な実技実習を行う。
到達目標	カリキュラム・ポリシーに掲げる「疾病内容、疾病治療、疾病の回復に関する知識や視野を育成する」が実現するよう、上肢の脱臼及び軟部組織損傷に関する柔道整復学分野の基本的な知識を身につける。 柔道整復分野における上肢脱臼及び軟部組織損傷の基礎知識、施術法及び徒手検査法を修得し、施術プログラムの立案と保存療法の適応可否の判断ができるようになる。
計画・内容	第1回 肩部の構造と機能 第2回 肩鎖関節脱臼（概要） 第3回 肩鎖関節脱臼（整復法） 第4回 肩鎖関節脱臼（固定法） 第5回 肩関節の構造と機能 第6回 肩関節脱臼（概要） 第7回 肩関節脱臼（整復法） 第8回 肩関節脱臼（固定法） 第9回 肘部の構造と機能 第10回 肘関節脱臼（概要） 第11回 肘関節脱臼（整復法） 第12回 肘関節脱臼（固定法） 第13回 指部の構造と機能 第14回 指部の脱臼 第15回 上肢脱臼の後療法 第16回 上肢脱臼の総復習 第17回 肩部の軟部組織損傷（概要） 第18回 肩部の軟部組織損傷（徒手検査法） 第19回 肘部の軟部組織損傷（概要） 第20回 肘部の軟部組織損傷（徒手検査法） 第21回 手部の軟部組織損傷（概要） 第22回 手部の軟部組織損傷（徒手検査法） 第23回 指部の軟部組織損傷（概要） 第24回 指部の軟部組織損傷（徒手検査法） 第25回 末梢神経の構造と機能

計画・内容	<p>第26回 上肢の絞扼性神経障害（概要） 第27回 上肢の絞扼性神経損傷（徒手検査法） 第28回 上肢の絞扼性神経損傷の総復習 第29回 総括 第30回 総括</p> <p>全15コマ（30回）、加藤（柔道整復師）が担当する。</p>
授業の進め方	実技実習を中心として行い、適宜各外傷の施術に必要な内容を講義する。
能動的な学びの実施	アクティブラーニングを取り入れ、実習を適宜行う。
授業時間外の学修	<p>授業前にあらかじめ解剖学、運動学及び柔道整復学の該当範囲を読み、不明点をまとめておくこと（各回1～2時間程度） 授業後は速やかに授業内容をまとめ、理解すること（各回1時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>（公社）全国柔道整復学校協会、柔道整復学・実技編（改訂第2版）、南江堂 （公社）全国柔道整復学校協会、柔道整復学・理論編（改訂第7版）、南江堂</p>
成績評価方法と基準	定期試験（100%）
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーについては、次回授業開始時にフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquare を参照
留意事項	事前に基礎柔道整復総論 ～ を履修し、その内容を理解していることが望ましい。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方 オンライン授業（zoom）と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法と基準 定期試験（オンライン）（55%）と授業で提示する課題（45%）で評価する。</p>